

SAKAE GREEN NEWS

今月の特集：アメリカシロヒトリ

平成22年5月号

株式会社 サカエグリーン 富山市野々上147番地 ISO9001/14001取得 TEL (076)434-0036 FAX (076)434-4968

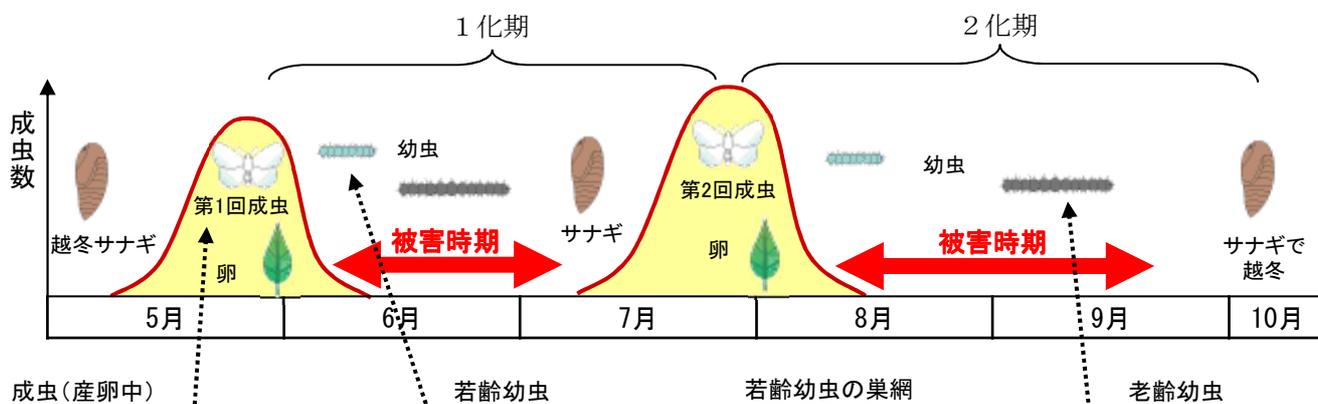
今年こそアメシロ撃退 大特集！

街路樹を食い荒らす最も有名な害虫といえばアメリカシロヒトリ、通称「アメシロ」でしょう。今月はアメシロの被害分布・生態・防除方法にわたる大特集！「MONTHLY TOPICS」も休んで行きます。毎年悩まされる害虫のことを、発生時期を前にじっくり確認しておきましょう。

アメシロは北米大陸が原産で、戦後アメリカ軍の貨物に付いてサナギが「入国」、東京で初めて発生し、山手線・中央線沿線に広がったとされます。これは“灯盗(ヒトリ)”の名が示すように、成虫が灯火に飛来するので、夏の窓を開けた電車に乗って分布を広げたとされています。その後関東一円に広がり、今や全国各地に飛火しています。日本に限らず、二次大戦に前後して中欧・東欧にも相次いで侵入し、少し遅れて韓国・中国にも侵入したようです。

被害木の種類は多く、サクラ/プラタナス/ミズキ/ニセアカシアなど落葉広葉樹のほとんど全てにわたります。一般に年2回発生しますが、年3回の地域もあります(北陸は2回)。

ただし発生場所は都市・人家周辺に限られ、森林には見られません。これは鳥や昆虫による捕食の結果と考えられています。



<http://www.afftis.or.jp/konchu/kemushi/shirohitori.html>



<http://blog.goo.ne.jp/fran-knonitora/e/b32bb70fd3e744aa7c81449aad22e3eb>



富山市内にて撮影



<http://www.afftis.or.jp/konchu/kemushi/shirohitori.html>

サナギで土中越冬し、5月下旬に第1回成虫がサクラなどの葉に1雌あたり300~700粒の卵を産みます。卵は10日程度で幼虫になり、糸を吐いて巣網(写真参照)をつくります。この時期(3~4齢)は葉肉だけを食うので、被害葉は白くかすり状になります。

10日程度巣網の中で生活した後、サナギをつくる場所を求めて樹から降り移動、一気に分散します。この頃の幼虫(4齢以降)は単独で動き回り葉脈まで食うので、被害樹は丸坊主になることもあります。

3cmほどに成長するとマユをつくってサナギとなり、2~3週間で成虫になります。これが第2回成虫(7月下旬)で、第1回成虫よりも多くの卵を産みます。そして再び幼虫が発生・加害し、10月頃にサナギになって越冬します。

人には無毒ですが、①被害樹が丸坊主になるなどみっともない ②分散した老齢幼虫が隣家に移ってトラブルになる ことなどから、各地で問題になります。

全国で被害を起こすアメシロはある意味「市場」であることもあり、研究者や各種メーカーがさまざまな駆除方法を提案しています。

裏面に続く

●アメシロ撃退作戦① 巣網除去

若齢幼虫の巣網は簡単に発見できるので、これを高枝切バサミなどで切り取りゴミ袋に入れて燃えるゴミとして出すのが最も効果的とされます。しかし高い樹木や数が多い場合にはたいへんな労力ですし、一回切除しても数日後に新しい巣ができることもあります。また分散が始まると葉から逃げてしまいこの方法は使えないので、時期も限られます。

毎年被害を受ける樹木を頻繁に観察でき、かつなるべく早く除去できる状況にあるのならば、非常に有効と言えるでしょう。

樺の先に火をつけて巣網を焼く方法もあるようですが、もし実施する際はくれぐれもご注意ください。

●アメシロ撃退作戦③ フェロモントラップ

アメシロのオス成虫は、夜明け近くにメスを求めて飛翔し配偶行動を行うことが知られていますが、それを利用した資材が「フェロモントラップ」です。アメシロのメスの匂い（フェロモン）を製剤化した誘引剤に惹かれて集まるオスを粘着板などで捕えるもので、環境や作業者にも安全です。

ただしフェロモントラップの主目的は被害の発生予測であり、オス捕獲による交尾確率の減少、ひいては幼虫発生量の抑制には、少なくとも速効性はありません。

幼虫防除適期は、第1回成虫発生ピークから15～25日、第2・3回ピークから10～20日とされています。

防除方法は様々あります。一つに拘ることなく複数の方法を組み合わせ、今年こそアメシロをしっかり防除しましょう。

●アメシロ撃退作戦② 薬剤散布

最もスマートな方法で、アメシロ適用の薬剤もスミチオン乳剤やトレボン乳剤、風神フロアブルなど40種類を超え、それゆえに最もよく行われる方法ですが、だからこそ最も注意が必要とも言えます。

まず薬剤のラベルにはたいてい「使用時期：発生初期」とありますが、アメシロの場合正確には卵から幼虫がふ化する時期で、巣網が形成されてしまうと薬剤が直接幼虫にかからず効果がありません。また分散が始まると単独行動のため逃しやすくなり、抵抗性も増しますが、散布依頼を受けるのはたいていこの時期です。

また、効果の高い薬剤は天敵類にも影響します。天敵が多い森林地帯で発生が少ないことは先に触れたとおりで、そういった薬剤を使用すると逆にアメシロの多発生を誘導してしまいます（リサージェンスといいます）。同一成分・類似効果をもつ薬剤の連用も、抵抗性個体の増殖を招き、散布しても効かなくなってしまうかもしれません。もちろん、散布前の事前周知や薬剤の飛散防止、作業者の薬剤吸収防止への配慮なども大切なこととは言ってもありません。

さらに、目立った被害が出てからの対策となりがちで、被害低減につながりにくいという問題もあります。

●アメシロ撃退作戦④ 樹幹注入剤

樹木に「予防接種」を施し、薬剤が浸透した葉をアメシロ幼虫に食べさせ駆除する方法で、薬剤飛散の心配がなく、降雨の影響も受けません。しかし樹木の個体や品種によって葉の変色や早期落葉が生じることがあり、また落花直後などは薬液が浸透しにくいなどの問題点が指摘されています。

製品紹介

アトラック液剤

アメシロ／マツカレハ対策用樹幹注入剤



- 有効成分：チアマトキサム 4.0%
- 毒性：普通物
- 魚毒性：A類
- 原体メーカー：シンジェンタ
- 包装：60ml/本、10本入り/ケース

- 学校や街路樹など、薬剤を散布しにくい場所のサクラやマツを防除する樹幹注入剤です。
- 樹幹注入剤なので騒音や薬剤飛散の心配がなく、大きな防除資材や水を必要としません。
- 樹幹部に穴を開けますが、その穴径は6mmと小さく、胸高直径25cmのサクラで2穴と開ける穴数も少ないので、樹木に与える影響はわずかです。
- 開花時は使用しないでください。また一作品種（ヤマザクラ、オオシマザクラ、シダレザクラなど）で早期落葉が発生する場合がありますのでご使用を避けてください。
- 降雨時の使用は避け、できるだけ朝夕の涼しい時間帯に処理してください。

作物名	適用害虫名	使用時期	薬量
サクラ・ケヤキ	アメリカシロヒトリ	幼虫発生前～幼虫発生期	胸高直径11～15cmで60ml、10cm増すごとに+1本(目安)
マツ	マツカレハ		
プラタナス	プラタナスグンバイ	新葉展開後	
ヤシ	ヤシオオオサゾウムシ	幼虫発生期	幹材積1㎡あたり400～600ml
デイゴ	デイゴヒメコバチ	成虫発生前または虫えい形成期	胸高直径6～10cmで60ml、10cm増すごとに+1本(目安)

取扱い・お問合せは—

緑を育み、未来へつなぐ



株式会社 サカエグリーン

〒930-0171 富山県富山市野々上147番地
TEL:076-434-0036 FAX:076-434-4968